

令和7年度海岸漂着物実態調査の結果について(概要版)

1. 目的

海岸ごみの発生抑制及び回収処理対策の検討に資する基礎データを得るために、海岸漂着物の実態調査を行うものである。

2. 調査概要

(1) 調査方法

環境省「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン(令和7年5月第4版)」に準じ、海岸漂着物の組成と量を調査した(表-1)。

表-1 調査概要

項目	内容
調査場所	山口県内の海岸4地点
調査時期	冬季(令和7年12月8日~12月12日)
調査方法	<p>神浦海岸(周防大島町)、中浦海岸(防府市)、武久中継ポンプ場前海岸(以下「武久海岸」という)(下関市)、油谷大浦海岸(以下「大浦海岸」という)(長門市)において海岸漂着物量が平均的とみられる海岸線50mを調査区画として設定した。</p> <p>調査区画内の漂着物(2.5cm以上)を回収し、種類別に個数、重量及び容積を計測した。漂着物の種類(表-2)は、プラスチック、発泡スチロール、ゴム、ガラス・陶器、金属、紙・ダンボール、天然繊維・革、木(木材等)、電化製品・電子機器、自然物、その他とした。ただし、プラスチックは別途カキ養殖用資材、ペットボトル、ビニール、その他の分類も実施した。</p>

表-2 調査票に示すごみの大分類と本調査で確認された主な漂着物の種類

大分類		漂着物の種類
プラスチック		ペットボトル、ポリ袋、食器、食品容器、生活雑貨、ビニール、ロープ・ひも、漁網、カキ養殖用資材、アナゴ筒、その他プラスチック(カキ養殖用ワッシャー)等
その他の人工物	発泡スチロール	発泡スチロール(フロート、ブイ)等
	ゴム	タイヤ、靴等
	ガラス・陶器	飲料用瓶、食品容器等
	金属	飲料缶、スプレー缶
	紙・ダンボール	飲料用紙パック、マスク等
	天然繊維・革	ロープ・ひも、軍手等
	木(木材)	角材等
電化製品・電子機器		電化製品・電子機器
自然物		流木、灌木
その他		上記の分類に入らないもの(くすり、もえがら)

## (2) 調査区画の設定方法

調査区画は、幅 50m で陸側は海岸植物の手前まで、海側は汀線までとした(図-1)。



図-1 調査区画イメージ

## (3) 調査地点

調査地点は図-2 に示すとおり、瀬戸内海側 2 地点、響灘側 1 地点、日本海側 1 地点の計 4 地点とした。



図-2 調査地点

### 3. 調査結果

#### (1) 海岸漂着物の重量(表-3、図-3)

- ・海岸漂着物の重量(海岸線 50m 当たり)は、大浦海岸が 237kg と最も重く、次いで神浦海岸及び武久海岸が 106kg、中浦海岸が 20kg の順であった。
- ・海岸漂着物の組成は、神浦海岸では自然物、中浦海岸及び大浦海岸ではプラスチック、武久海岸では木材が最も割合が高かった。
- ・プラスチック(発泡スチロールを除く)の組成で多かったものは、神浦海岸ではカキ養殖用資材が 25%、ペットボトルが 52%、中浦海岸ではペットボトルが 26%、その他(硬質プラスチック破片等(主な系統:生活雑貨系統の破片など))が 51%、武久海岸ではペットボトルが 27%、その他(硬質プラスチック破片・浮子等)が 48%、大浦海岸ではその他(浮子等)が 20%、ロープ・ひもが 75%であった。

表-3 各調査地点の海岸漂着物の重量

海域	市町	調査地点	重量 (50m当たり)
瀬戸内海側	周防大島町	神浦海岸	106kg
	防府市	中浦海岸	20kg
響灘側	下関市	武久海岸	106kg
日本海側	長門市	大浦海岸	237kg

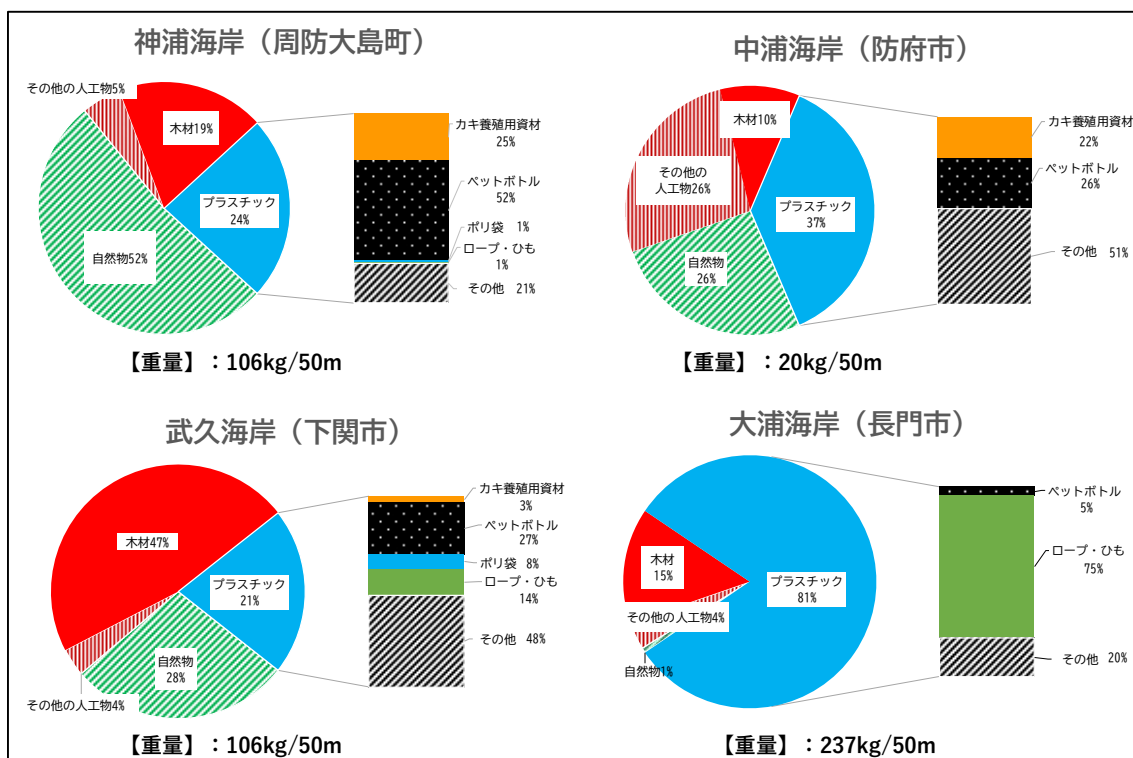


図-3 海岸漂着物の組成(重量)

注) 割合は四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合がある

## (2) 海岸漂着物の容積(表-4、図-4)

- ・海岸漂着物の容積(海岸線 50m 当たり)は、武久海岸が 7,561L と最も大きく、次いで大浦海岸が 3,513L、神浦海岸が 1,489L、中浦海岸が 144L の順であった。
- ・海岸漂着物の組成は、神浦海岸及び武久海岸では自然物が最も割合が高かった。中浦海岸及び大浦海岸ではプラスチックが最も割合が高かった。
- ・プラスチック(発泡スチロールを除く)の組成で多かったものは、神浦海岸ではカキ養殖用資材及びその他(硬質プラスチック破片等(主な系統:生活雑貨系統の破片など))が 25%、ペットボトルが 46%、中浦海岸ではペットボトルが 26%、その他(硬質プラスチック破片等(主な系統:生活雑貨系統の破片など))が 57%、武久海岸ではペットボトルが 26%、その他(硬質プラスチック破片等(主な系統:生活雑貨系統の破片など))が 57%、大浦海岸ではペットボトル及びポリ袋が 23%、その他(分類に無いもの:プラスチックのいす)が 43%、大浦海岸ではロープ・ひもが 87%であった。

表-4 各調査地点の海岸漂着物の容積

海域	市町	調査地点	容積 (50m当たり)
瀬戸内海側	周防大島町	神浦海岸	1,489L
	防府市	中浦海岸	144L
響灘側	下関市	武久海岸	7,561L
日本海側	長門市	大浦海岸	3,513L

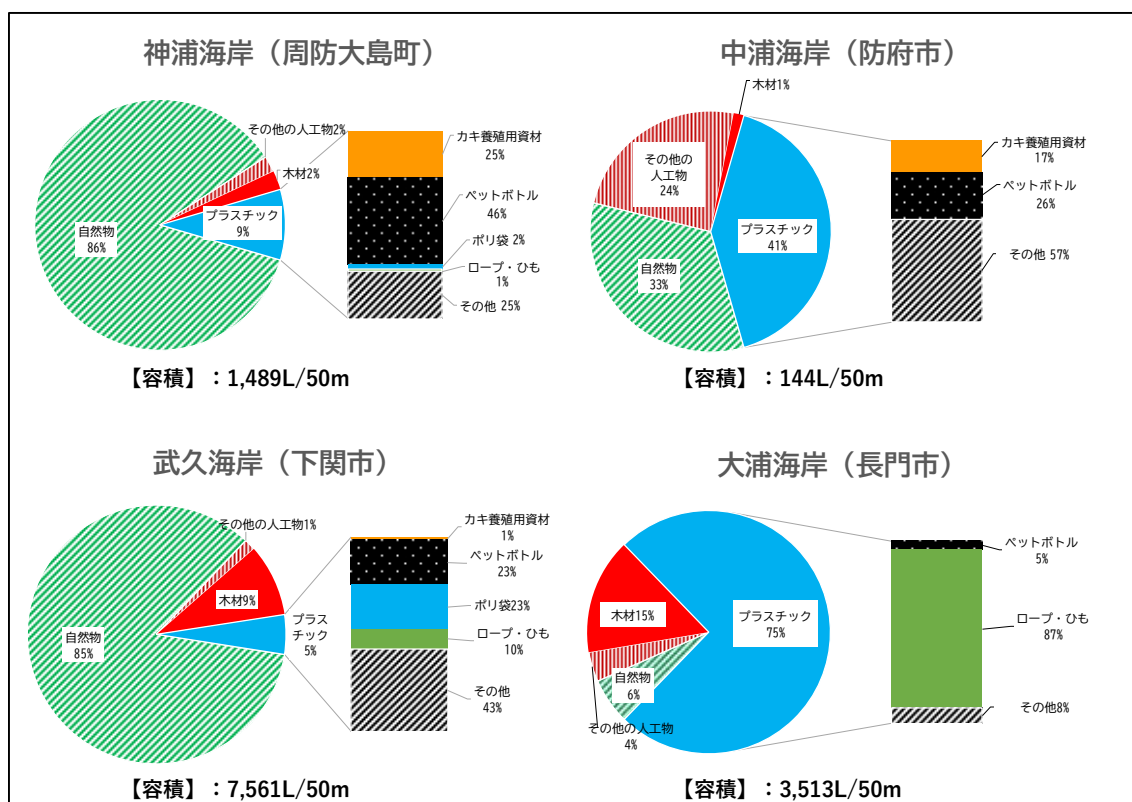


図-4 海岸漂着物の組成(容積)

注) 割合は四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合がある

### (3) 海岸漂着物の個数(表-5、図-5)

- ・海岸漂着物の個数(海岸線 50m 当たり)は、神浦海岸が 6,805 個と最も多く、次いで武久海岸が 1,724 個、大浦海岸が 764 個、中浦海岸が 580 個の順であった。
- ・海岸漂着物の組成は、いずれの地点もプラスチックが最も多く、神浦海岸では 99%の割合を占めていた。
- ・プラスチック(発泡スチロールを除く)の組成で多かったものは、瀬戸内海側ではカキ養殖用資材が多く、神浦海岸は 83%、中浦海岸は 77%であった。武久海岸ではその他(テープ等(荷造りバンド、ビニールテープ))が 27%、ポリ袋が 47%、大浦海岸ではペットボトルが 28%、ロープ・ひもが 31%、その他(浮子等)が 39%であった。

表-5 各調査地点の海岸漂着物の個数

海域	市町	調査地点	個数 (50m当たり)
瀬戸内海側	周防大島町	神浦海岸	6,805個
	防府市	中浦海岸	580個
響灘側	下関市	武久海岸	1,724個
日本海側	長門市	大浦海岸	764個

※灌木、破片等は個数を計測していない(重量・容積のみ計測)

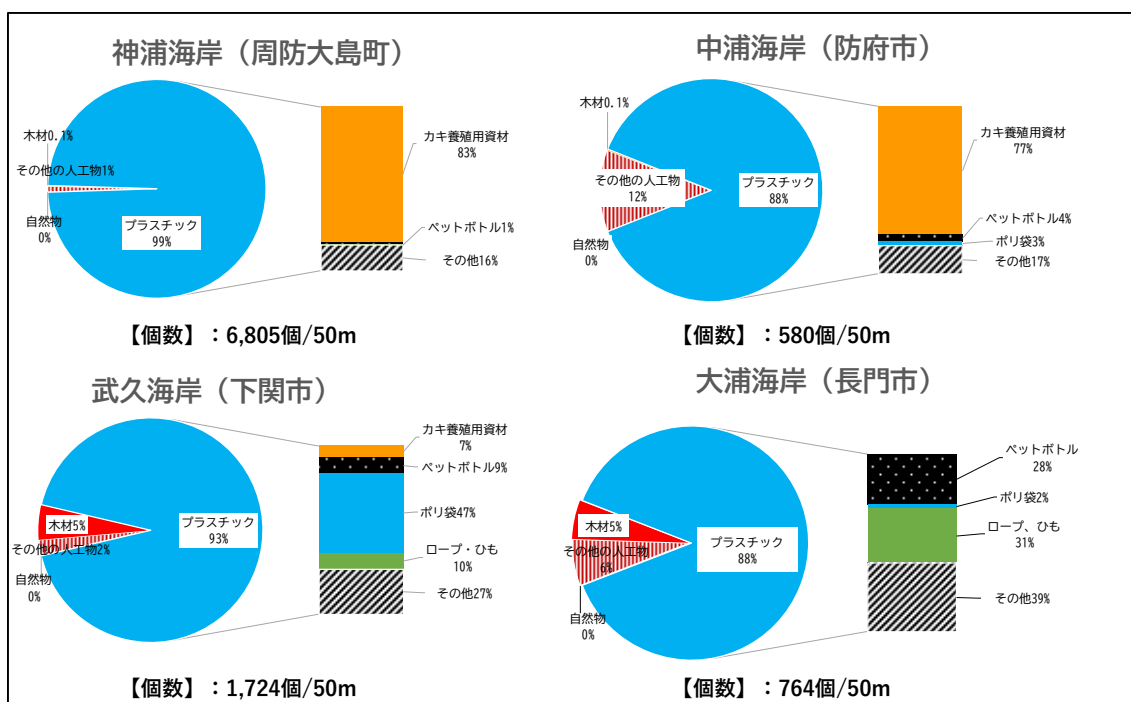


図-5 海岸漂着物の組成(個数)

注) 割合は四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合がある

#### (4) 海岸漂着物の国別割合(表-6、図-6～図-9)

ペットボトル、ペットボトルキャップ、浮子を対象に国別割合を調査した。その際、ペットボトルはバーコード及び言語表記(以下「表記」という)、ペットボトルキャップ、浮子は言語表記から国を判別し、不明なものは除いた。

- ・神浦海岸では、ペットボトル、ペットボトルのキャップ及び浮子全てにおいて判別された国は日本が100%であった。
- ・中浦海岸では、ペットボトルのうちバーコードは日本が100%、表記は日本が81%で韓国が19%であった。また、ペットボトルキャップは日本が100%であり、浮子は判別された国は見つからなかった。
- ・武久海岸では、ペットボトルのうちバーコードは日本が72%、その他は中国・台湾、韓国であり、表記は日本が84%、その他は中国・台湾であった。また、ペットボトルキャップは日本が57%、その他は中国・台湾、韓国であった。浮子は中国・台湾が97%であった。
- ・大浦海岸では、ペットボトルのうち日本と判別されたのはバーコード、表記ともにそれぞれ30%、6%と低く、国外では中国・台湾、韓国の割合が高かった。ペットボトルキャップは中国・台湾が67%、韓国が22%、ロシアが11%であった。浮子は中国・台湾が84%を占めていた。

表-6 各調査地点の海岸漂着物の個数

調査地点	ペットボトル (50m当たり)			ペットボトルキャップ (50m当たり)		浮子 (50m当たり)	
	合計	バーコード有	言語表記有	合計	言語表記有	合計	言語表記有
神浦海岸	95個	22個	73個	101個	37個	2個	2個
中浦海岸	20個	4個	16個	17個	17個	1個	0個
武久海岸	148個	29個	32個	210個	53個	48個	35個
大浦海岸	190個	33個	17個	29個	9個	132個	91個

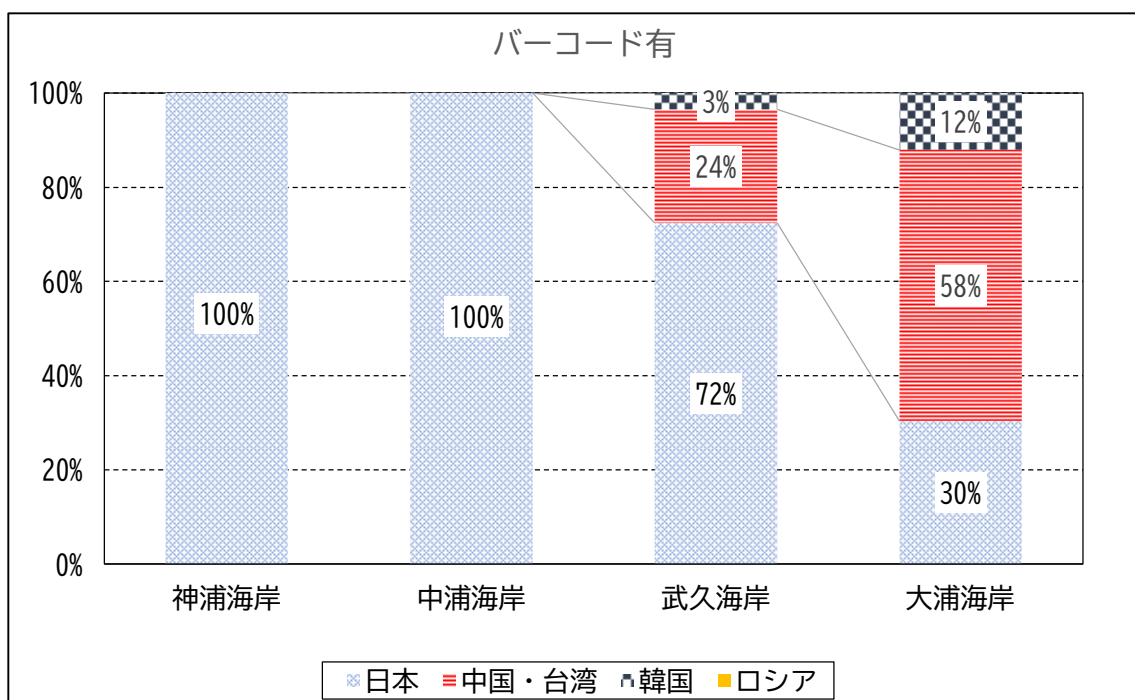


図-6 ペットボトルの国別割合(バーコードあり)

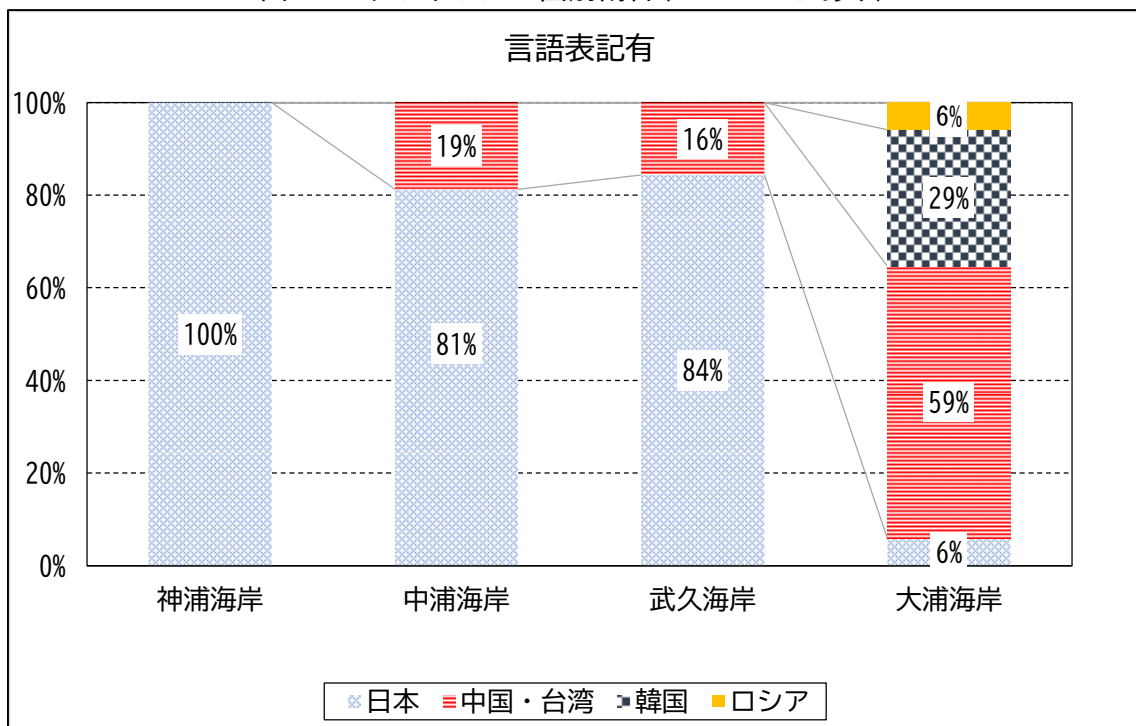


図-7 ペットボトルの国別割合(言語表記あり)

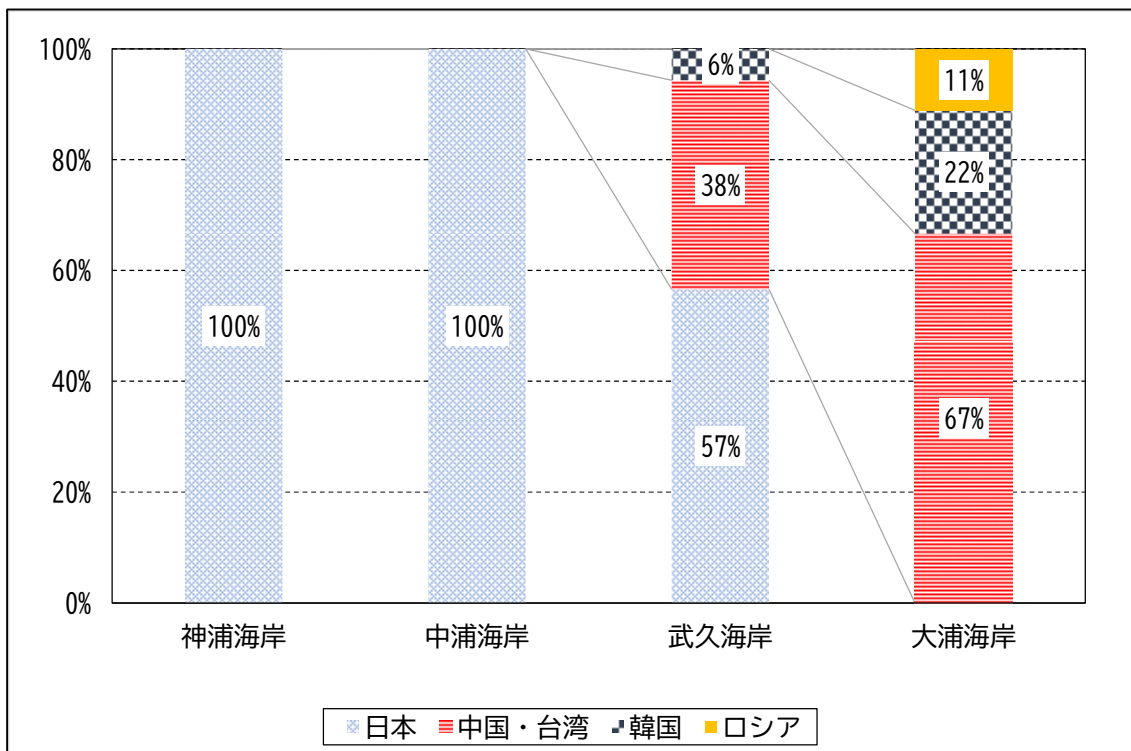


図-8 ペットボトルキャップの国別割合

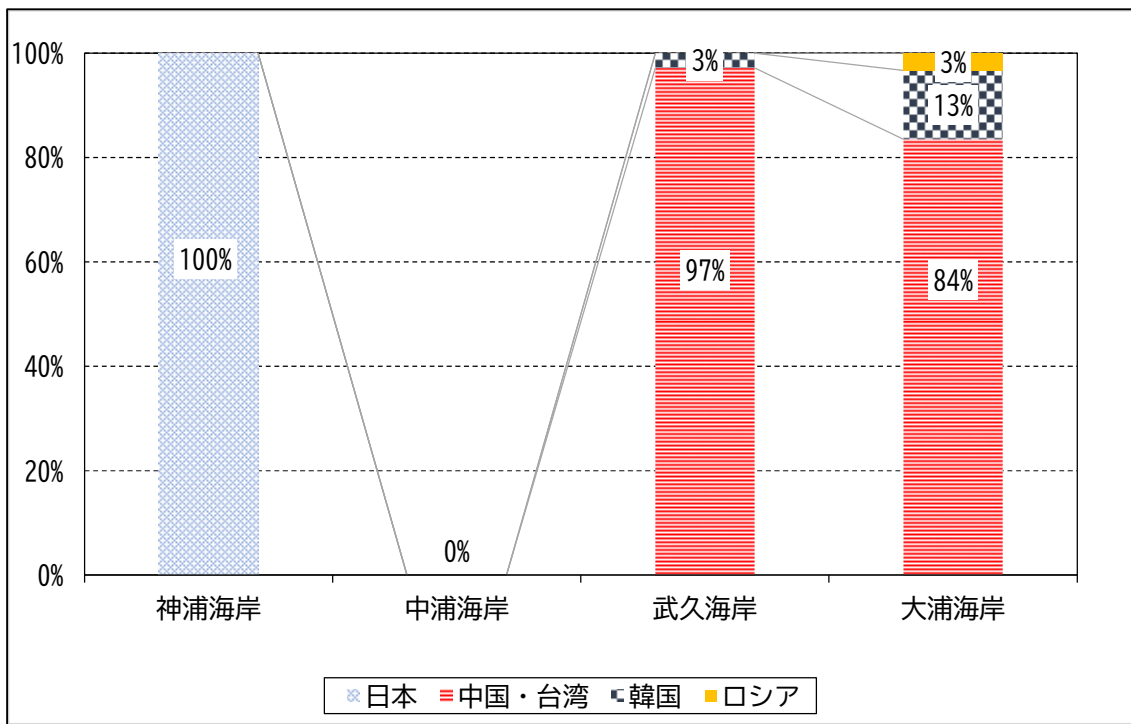


図-9 浮子の国別割合



## (5) 過年度調査結果との比較

自然物を除く人工漂着物、カキ養殖用資材及び言語表記があったペットボトルの国別割合を対象に、過年度調査(R1～R7年度)と本年度の調査結果を比較した。

比較対象は各年度の同海岸の冬季調査とした。また、R1年度調査は調査範囲が海岸10m当たりであるため、50m当たりの量に換算した。

### 1) 人工漂着物(自然物を除く)

#### ① 重量(表-7、図-10)

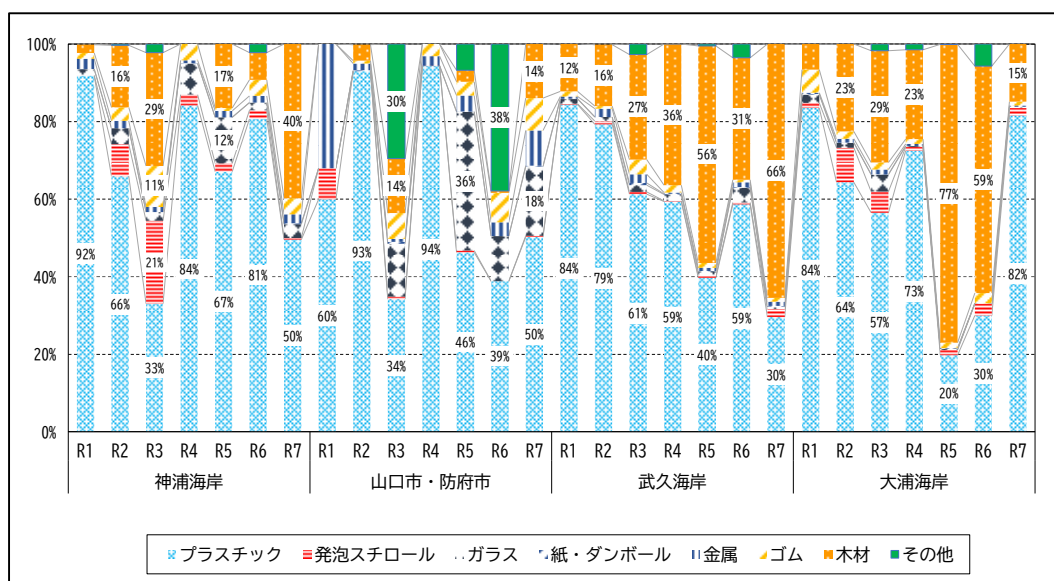
- 各調査地点での人工漂着物の重量をR7年度と比較すると、武久海岸では1.3倍に増加した。神浦海岸及び大浦海岸では0.8倍、中浦海岸では0.7倍に減少した。大浦海岸ではR1～R3年度調査で減少傾向にあり、R4～R6年度調査にかけて増加傾向へと変化していたが、本年度は昨年度よりも減少していた。
- 人工漂着物の内訳をみると、R7年度の神浦海岸のプラスチック重量が過年度と比較して特に多かった。いずれの年度、各調査海岸においても、プラスチック漂着物が高い割合を示しているが、R5年度の武久海岸、R5、6年度の大浦海岸の調査では、木材漂着物の重量がプラスチック漂着物の重量を上回る結果となった。

表-7 各調査地点の海岸漂着物の比較(重量)

海域	市町	調査地点	重量(50m当たり)							
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
瀬戸内海	周防大島町	神浦海岸	67.3kg	31.9kg	64.0kg	28.7kg	11.0kg	63.7kg	50.6kg	
		山口市・防府市	尻川海水浴場	1.3kg	-	-	-	-	-	-
			美濃が浜	-	20.8kg	6.4kg	-	-	-	-
			中浦海岸	-	-	-	59.2kg	19.4kg	19.8kg	14.4kg
響灘	下関市	武久海岸	170.9kg	58.3kg	48.1kg	89.0kg	82.4kg	56.6kg	76.4kg	
日本海	長門市	大浦海岸	601.7kg	164.7kg	68.2kg	138.6kg	207.3kg	312.5kg	236.0kg	

注：1. 上表の値は、自然物を除く人工漂着物の総計である。

2. 「-」は調査未実施を示す。



※グラフ内は10%以上の値のみ表示。

図-10 海岸漂着物の比較(重量)

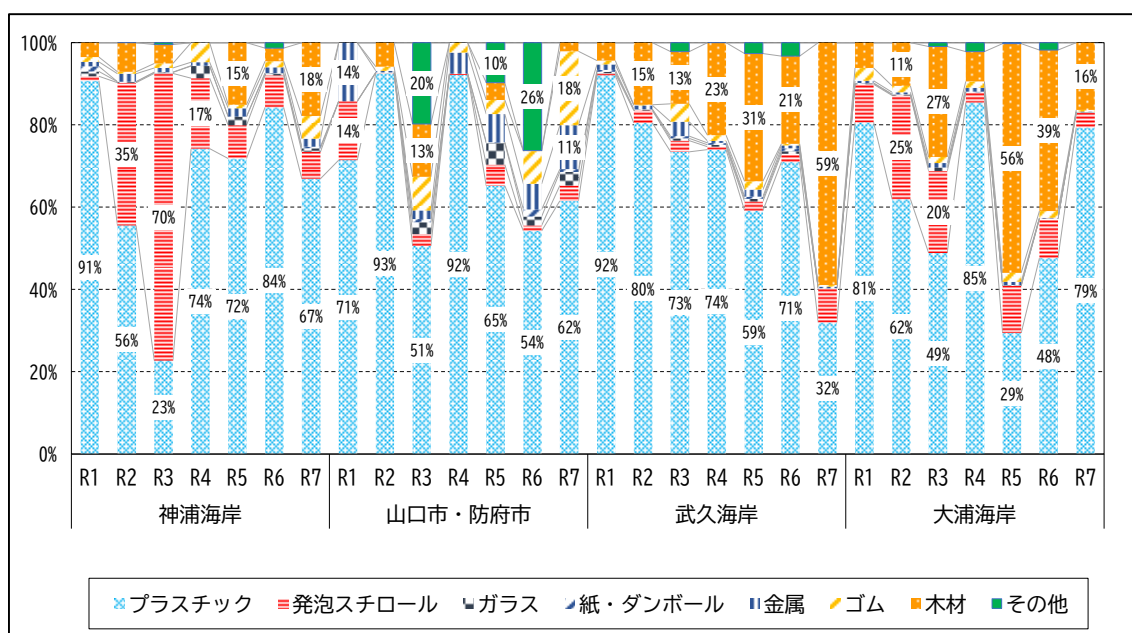
②容積(表-8、図-11)

- ・各調査地点での人工漂着物の容積を R7 年度と比較すると、武久海岸及び大浦海岸ではそれぞれ 2.2 倍、1.3 倍に増加していた。神浦海岸及び中浦海岸ではそれぞれ 0.3 倍、0.8 倍に減少していた。
- ・人工漂着物の内訳をみると、いずれの海岸及び調査年度でもプラスチックの割合が高かったが、R3 年度の神浦海岸では発泡スチロールの割合が最も高くなっている。これは台風等の影響により大型の発泡スチロールブイが大量に漂着したためと考えられる。R5 年度の大浦海岸では木材の割合が最も高くなっており、これについても突発的な降雨により建築資材用の木材が大量に流れ込んだためと考えられる。R7 年度の大浦海岸ではプラスチックの割合が最も高くなっている。これはロープ・ひもが大量に流れ込んだためである。
- ・調査年度によってばらつきがあるものの、神浦海岸及び大浦海岸で発泡スチロールの割合が高くなるが多かった。

表-8 各調査地点の海岸漂着物の比較(容積)

海域	市町	調査地点	容積(50m当たり)						
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
瀬戸内海	周防大島町	神浦海岸	430L	564L	837L	296L	220L	622L	203L
		山口市・防府市	35L	-	-	-	-	-	-
		美濃が浜	-	205L	31L	-	-	-	-
		中浦海岸	-	-	-	779L	277L	126L	96L
響灘	下関市	武久海岸	1,135L	664L	394L	1,103L	934L	524L	1,161L
日本海	長門市	大浦海岸	4,850L	2,141L	712L	2,287L	1,566L	2,553L	3,297L

注：1. 上表の値は、自然物を除く人工漂着物の総計である。  
 2. 「-」は調査未実施を示す。



※グラフ内は10%以上の値のみ表示。

図-11 海岸漂着物の比較(容積)

③個数(表-9、図-12)

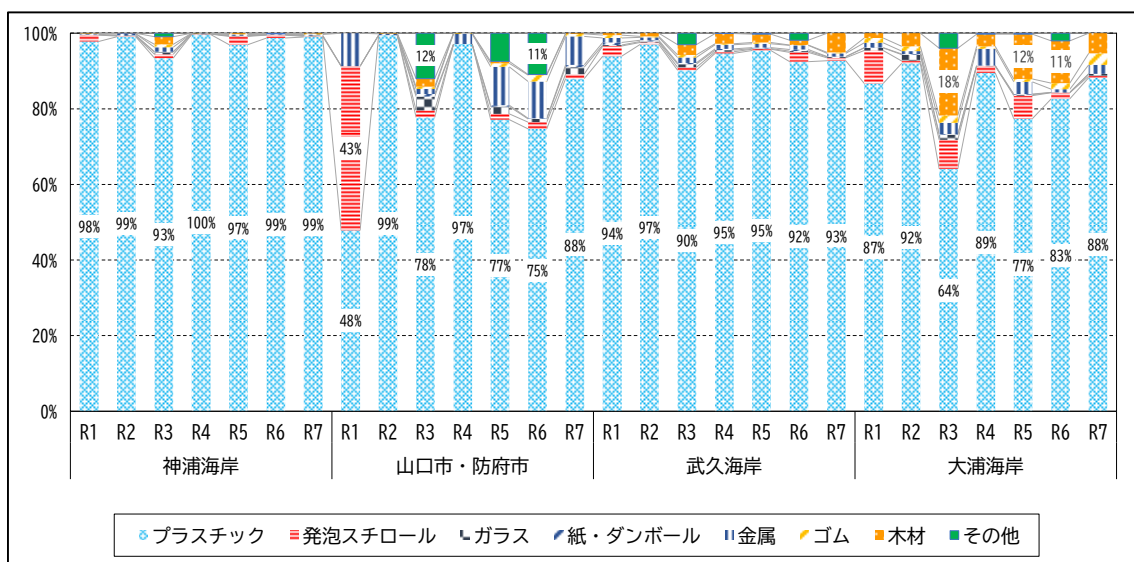
- ・各調査地点での人工漂着物の個数を R7 年度と比較すると、神浦海岸では 0.3 倍、武久海岸及び大浦海岸ではそれぞれ 0.4 倍に減少していた。中浦海岸では同程度となった。
- ・人工漂着物の内訳をみると、いずれの海岸でもプラスチックの割合が高くなっているが、特に R7 年度の神浦海岸のプラスチックの個数が多くなっていた。これは R7 年度の全海岸での合計漂着ごみの個数 9,873 個に対して約 68%を占める割合であった。
- ・R7 年度の神浦海岸及び大浦海岸ではプラスチックが大幅に減少した結果を示していた。神浦海岸では定期的にカキ養殖用資材を拾い集めている人がおり、その数が減少していたためと思料する。また、大浦海岸では海外からのロープ・ひもの流入(分離されておらず、長い 1 本物)があったためと思料する。
- ・神浦海岸のプラスチックの割合は全調査年度で高く、93~100%の割合を占めた。

表-9 各調査地点の海岸漂着物の比較(個数)

海域	市町	調査地点	個数(50m当たり)						
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
瀬戸内海	周防大島町	神浦海岸	12,115個	7,672個	1,919個	16,343個	2,501個	23,882個	6,805個
		山口市・防府市	尻川海水浴場	115個	-	-	-	-	-
		美濃が浜	-	5,752個	896個	-	-	-	-
		中浦海岸	-	-	-	4,159個	739個	710個	580個
響灘	下関市	武久海岸	6,735個	2,423個	1,659個	3,550個	2,753個	4,502個	1,724個
日本海	長門市	大浦海岸	10,400個	1,571個	1,183個	2,336個	1,515個	1,954個	764個

注：1. 上表の値は、自然物を除く人工漂着物の総計である。

2. 「-」は調査未実施を示す。



※グラフ内は 10%以上の値のみ表示

図-12 海岸漂着物の比較(個数)

## 2) カキ養殖用資材(表-10、図-13)

- 各調査地点でのカキ養殖用資材の個数を R7 年度と比較すると、中浦海岸では 5.7 倍に増加した。神浦海岸及び武久海岸ではそれぞれ 0.3 倍、0.1 倍に減少した。大浦海岸ではカキ養殖用資材は見られなかった。
- カキ養殖用資材の個数が最も多い神浦海岸で、その内訳(パイプ、まめ管、ワッシャー)をみると、パイプは R1 年度調査に過去最多でその後は大きく減少しており、低い水準で推移している。これは広島県によるパイプの買い取り条件の緩和の影響を反映したものと考えられる。一方、R7 神浦海岸の調査でまめ管やワッシャーの回収個数が減ったが、定期的にカキ養殖用資材を拾い集めている人がおり、その数が減少していたためである。
- 武久海岸でのカキ養殖用資材は R1 年度で過去最多となっており、R2 年度から大きく減少したが、その後は徐々に増加傾向にある。
- 今年度、山口県では 9 月に雨量が多くなっていたが、大きな増加は見られなかった。なお、特に広島湾に近い神浦海岸でカキ養殖用資材の漂着数が多いが、これらについても減少傾向にある。

表-10 各調査地点のカキ養殖用資材の比較(個数)

海域	市町	調査地点	個数 (50m当たり)						
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
瀬戸内海	周防大島町	神浦海岸	11,380個	7,055個	1,406個	15,789個	2,189個	22,000個	6,417個
		山口市・防府市	10個	-	-	-	-	-	-
		美濃が浜	-	4,878個	546個	-	-	-	-
		中浦海岸	-	-	-	3,361個	310個	72個	408個
響灘	下関市	武久海岸	1,205個	208個	323個	376個	412個	1088個	111個
日本海	長門市	大浦海岸	320個	34個	19個	8個	42個	26個	0個

注:「-」は調査未実施を示す。

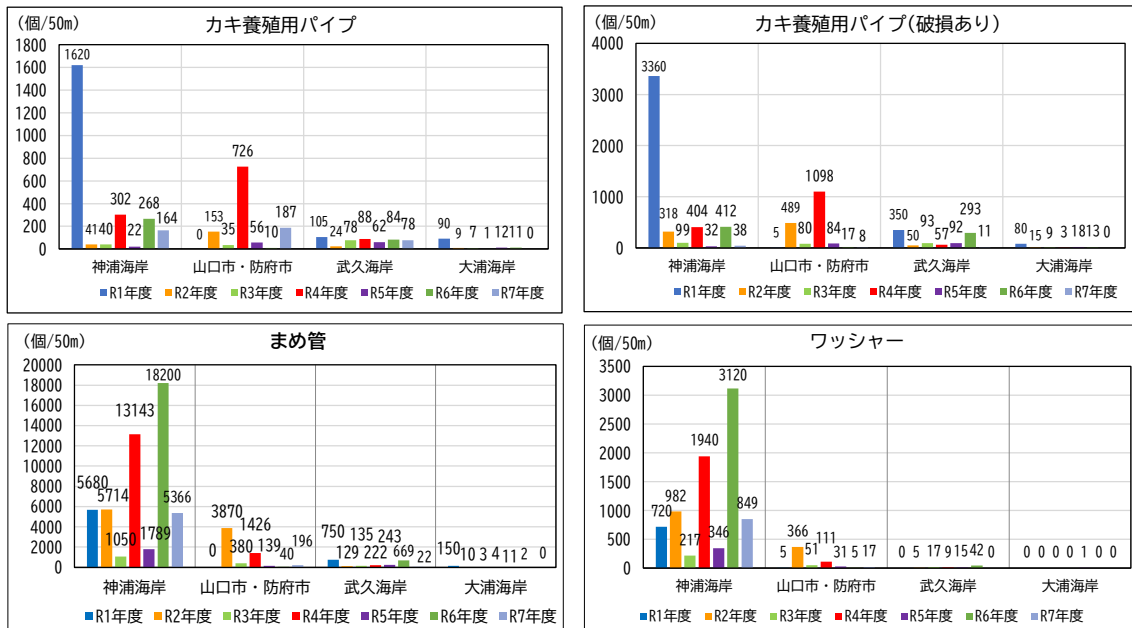


図-13 カキ養殖用資材の比較(個数)

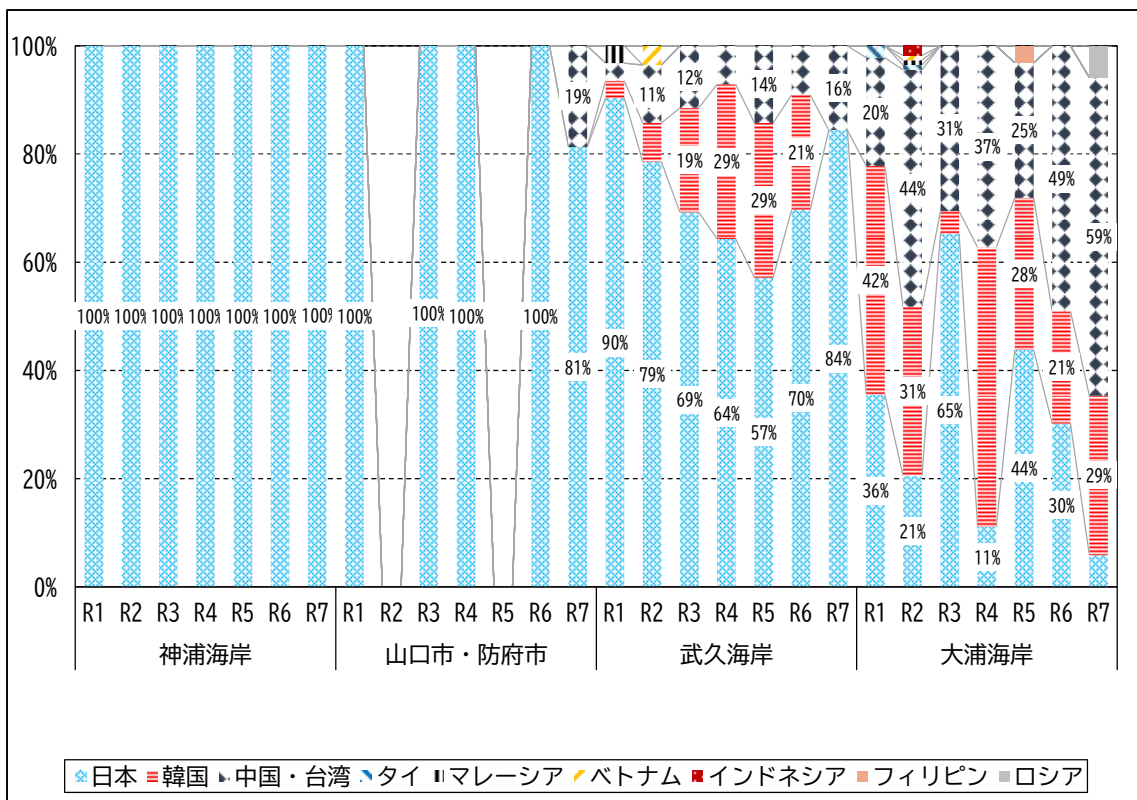
### 3) ペットボトルの国別割合 (表-11、図-14)

- ・ペットボトルの国別割合は、瀬戸内海側の神浦海岸では日本が100%であり、過年度調査と同様であった。
- ・言語表記により国の判別ができたペットボトルの個数は、ペットボトルの漂着個数が多い神浦海岸及び武久海岸で多かった。神浦海岸では、日本表記ものがR1～R7年度調査において100%であり、漂着するペットボトルが大きく損傷を受けていない状態で漂着し、判別ができやすかったと考えられる。

表-11 各調査地点の言語表記によるペットボトルの比較(個数)

海域	市町	調査地点	個数 (50m当たり)						
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
瀬戸内海	周防大島町	神浦海岸	30個	51個	47個	15個	8個	85個	73個
		山口市・防府市	15個	-	-	-	-	-	-
	山口市・防府市	美濃が浜	-	0個	2個	-	-	-	-
		中浦海岸	-	-	-	2個	0個	6個	16個
響灘	下関市	武久海岸	155個	28個	26個	14個	14個	33個	32個
日本海	長門市	大浦海岸	225個	112個	72個	126個	32個	53個	17個

注：「-」は調査未実施を示す。



※グラフ内は10%以上の値のみ表示

図-14 言語表記によるペットボトルの国別割合の比較

## 4. まとめ

### (1) 海岸漂着物の重量・容積

- ・海岸漂着物の重量は、大浦海岸(日本海側)が最も多く、次いで武久海岸(響灘側)及び神浦海岸(瀬戸内海側)の順であり、中浦海岸(瀬戸内海側)ではさほど見られなかった。容量は武久海岸(響灘側)が最も多く、次いで大浦海岸(日本海側)、神浦海岸(瀬戸内海側)の順であり、中浦海岸(瀬戸内海側)ではさほど見られなかった。
- ・海岸漂着物の組成をみると、4 海岸全体でみると重量ではプラスチックの割合が最も高く 52.7%、容積では自然物の割合が高く 62.6%を占めていた。海岸個別でみると神浦海岸では自然物の割合が高く、重量で 52.3%、容積で 86.4%を占めていた。中浦海岸ではプラスチックの割合が高く、重量で 37.1%、容積で 41.1%を占めていた。武久海岸では重量では木材の割合が高く 47.0%、容積では自然物の割合が高く 84.6%を占めていた。大浦海岸では、プラスチックの占める割合が他の海岸と比較して高く、重量で 81.1%、容積で 74.5%を占めていた。
- ・プラスチックの組成(重量)は、瀬戸内海側の神浦海岸ではペットボトル、カキ養殖用資材の割合が高く、中浦海岸ではその他プラスチック、ペットボトルの割合が高かった。響灘側の武久海岸ではその他プラスチック、ペットボトルの割合が高く、日本海側の大浦海岸ではロープ・ひも、その他プラスチックの割合が高かった。

### (2) 海岸漂着物の個数

- ・海岸漂着物の個数は、神浦海岸(瀬戸内海側)、武久海岸(響灘側)、大浦海岸(日本海側)、中浦海岸(瀬戸内海側)の順に多かった。
- ・海岸漂着物の組成をみると、いずれの海岸でもプラスチックの割合が高く 88~99%であった。プラスチックの組成は、瀬戸内海側ではカキ養殖用資材、響灘側ではポリ袋、ロープ・ひも、その他(テープ等(荷造りバンド、ビニールテープ))の割合が高かった。日本海側ではペットボトル、ロープ・ひも、その他(浮子等)の割合が高かった。

### (3) 海岸漂着物の国別割合

- ・ペットボトル等に記載された表記を基に判別した国別の割合は、瀬戸内海側の神浦海岸では判別できたものすべてが国内からの海岸漂着物であった。一方、響灘側及び日本海側では国外のものも多くみられた。
- ・響灘側ではペットボトルは国内が 78%程度、ペットボトルキャップは国内が 70%程度で、残りは国外(中国・台湾及び韓国)であった。
- ・日本海側では日本国内のペットボトルが 30%であり、日本国内のペットボトルキャップは 78%となっており、中国・台湾及び韓国のものが多かった。

### (4) 過年度比較

- ・過年度調査(R1~R6 年度)と R7 年度の調査結果を比較すると、人工漂着物の重量は神浦海岸では R6 年度よりも若干少なく、中浦海岸では R5~6 年度よりも若干少なく、武久海岸では R6 年度よりも若干多く、大浦海岸では R1 年度を除く R2~R5 年度よりも多く、R6 年度よりは少なかった。

- ・人工漂着物の内訳でみると、漂着物の個数は R6 年度が過去最多であり、本年度は昨年よりも大幅に少なかった。
- ・国外からのペットボトルの漂着は、過年度同様、瀬戸内海側では確認されず、響灘側及び日本海側では国外(中国・台湾及び韓国等)のものが多く確認された。

#### (5) 調査海岸ごとの漂着ごみの特徴

表-12 に調査海岸ごとの漂着ごみの特徴を示す。表のように、各海岸に地域特性が現れ、それぞれ特徴的な分類結果となった。

表-12 調査海岸ごとの特徴

調査海岸	特徴
瀬戸内海側	<p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内海は内海であり、潮の流れが複雑なため、特定の湾や入り江に漂着ごみが溜まりやすい。</li> <li>・太田川等の河川や都市部から流入するごみ(ペットボトル、生活雑貨等)が漂着しやすい。</li> <li>・漂着ごみの発生源が日本由来のものがほとんどである。</li> </ul>
神浦海岸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山口県内の調査海岸のうち、プラスチックが占める割合が重量・体積・個数すべてにおいて最も多い。</li> <li>・プラスチックが占める割合のうち、カキ養殖用資材が最も多く、広島湾から流出したものと思われる。</li> <li>・カキ養殖用資材(まめ管、ワッシャー)等のサイズの小さい漂着ごみが多く、堆積しやすい。</li> </ul>
中浦海岸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近くに大きな河川(佐波川、榎野川など)がある影響からか、食品容器等の陸域由来のごみも多くみられる。</li> <li>・調査年度によっては、カキ養殖用資材が多くみられる。</li> </ul>
日本海側	<p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対馬海流や偏西風等の影響もあり、外国(特に中国、韓国)のごみが多く漂着する。</li> </ul>
大浦海岸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国(特に中国、韓国)の漂着ごみが多く、ペットボトルの個数では日本のものよりも多い。</li> <li>・容積の大きい、発泡スチロールブイやプラスチックブイが多く漂着する。</li> <li>・一部破損したような木製パレットの破片及び建築資材のような木材が多くみられる。</li> </ul>
響灘側	<p>武久海岸</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本海と瀬戸内海の間中に位置するため、日本海の特徴である外国製のペットボトルやプラスチック(菓子類、容器等)及び瀬戸内海の特徴であるカキ養殖用資材が多く漂着する。</li> <li>・都市部が近傍に位置するため、生活雑貨系統のプラスチックごみも多い。</li> <li>・ロープ・ひも(漁具)、漁網等の漁業ごみも多い。</li> </ul>

【参考データ】

(1) 海岸漂着物の組成 (重量 : kg)

調査海岸 調査項目	瀬戸内海側				響灘側		日本海側		全海岸	
	神浦海岸		中浦海岸		武久海岸		大浦海岸			
	重量	割合	重量	割合	重量	割合	重量	割合	重量	割合
プラスチック	25.1	23.6	7.2	37.1	22.6	21.2	192.5	81.1	247.5	52.7
発泡スチロール	0.2	0.2	0.0	0.2	1.6	1.5	4.5	1.9	6.4	1.4
ガラス	1.8	1.7	2.6	13.2	0.5	0.4	0.8	0.4	5.7	1.2
紙・段ボール	0.1	0.1	0.0	0.2	0.2	0.1	0	0.0	0.3	0.1
金属	1.2	1.1	1.3	6.7	0.8	0.8	0.7	0.3	4.0	0.9
ゴム	2.1	2.0	1.2	6.1	0.7	0.7	2.4	1.0	6.4	1.4
木材	20.1	19.0	2.0	10.3	50.0	47.0	35.0	14.7	107.1	22.8
自然物	55.5	52.3	5.1	26.1	30.0	28.2	1.5	0.6	92.1	19.6
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
総計	106.1	100.0	19.5	100.0	106.4	100.0	237.5	100.0	469.5	100.0

注：1. 割合は四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

2. 重量の「0.0」は0.1kg未満、「0」は未回収を示す。

(2) 海岸漂着物の組成 (容積 : L)

調査海岸 調査項目	瀬戸内海側				響灘側		日本海側		全海岸	
	神浦海岸		中浦海岸		武久海岸		大浦海岸			
	容積	割合	容積	割合	容積	割合	容積	割合	容積	割合
プラスチック	135.8	9.1	59.3	41.1	371.4	4.9	2617.6	74.5	3184.1	25.1
発泡スチロール	13.3	0.9	3.6	2.5	96.3	1.3	117.4	3.3	230.6	1.8
ガラス	1.6	0.1	3.1	2.2	0.3	0.0	5.5	0.2	10.5	0.1
紙・段ボール	1.0	0.1	0.7	0.5	0.2	0.0	0	0.0	1.8	0.0
金属	3.9	0.3	10.3	7.1	4.1	0.1	4.5	0.1	22.8	0.2
ゴム	11.1	0.7	17.3	12.0	4.9	0.1	12.3	0.4	45.6	0.4
木材	36.2	2.4	2.0	1.4	684.0	9.0	540.0	15.4	1262.2	9.9
自然物	1286.0	86.4	48	33.3	6400	84.6	216.0	6.1	7950.0	62.6
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
総計	1,489.0	100.0	144.3	100.0	7,561.1	100.0	3,513.3	100.0	12,707.7	100.0

注：1. 割合は四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

2. 容積の「0.0」は0.1L未満、「0」は未回収を示す。



(3) 海岸漂着物の組成 (個数 : 個)

調査海岸 調査項目	瀬戸内海側				響灘側		日本海側		全海岸	
	神浦海岸		中浦海岸		武久海岸		大浦海岸			
	個数	割合	個数	割合	個数	割合	個数	割合	個数	割合
プラスチック	6,737	99.0	510	87.9	1,598	92.7	674	88.2	9,519	96.4
発泡スチロール	11	0.2	7	1.2	14	0.8	3	0.4	35	0.4
ガラス	15	0.2	11	1.9	4	0.2	5	0.7	35	0.4
紙・段ボール	4	0.1	3	0.5	1	0.1	0	0.0	8	0.1
金属	13	0.2	44	7.6	15	0.9	18	2.4	90	0.9
ゴム	17	0.2	4	0.7	5	0.3	23	3.0	49	0.5
木材	8	0.1	1	0.2	87	5.0	41	5.4	137	1.4
自然物	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
総計	6,805	100.0	580	100.0	1,724	100.0	764	100.0	9,873	100.0

注：1. 割合は四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

2. 灌木及び破片等は個数を計測していない(重量、容積のみ計測)